発表成果（論文、印刷物） 平成17年度

気象研究所の職員が平成17年度に発表した論文の一覧を個人別に五十音順で掲載している。
論文等には、原著論文のほか、報告書、著書、翻訳、解説などの著作物について、単独・共著の区別なく掲載した。但し、口頭発表に伴う著作物（学会予稿集等 Proceeding など）については、口頭発表と重複するため除いている。
各著作物の情報は、著者、刊行年、論文タイトル、掲載誌、掲載巻・頁の順に掲載している。
また、整理番号の後ろに「＊」を付した著作物は、査読付き論文であることを示している。

青木重樹
青木重樹、西政樹、中村浩二、橋本徹夫、吉川澄夫、伊藤秀美、2006: 平成16年(2004年)新潟県中越地震の全体像。 月刊地球、号外53, 34-41。
気象研究所地震火山研究部、気象庁地震予知情報課（青木重樹、西政樹、中村浩二、橋本徹夫、伊藤秀美）、2005、平成16年(2004年)新潟県中越地震の余震分布に見られる二重の地震面、地震予知連絡会会報, 73, 341-345
青木重樹、2005、余震分布の詳細構造、気象庁技術報告「平成16年(2004年)新潟県中越地震調査報告」。

青木輝夫


宮内正厚、青木輝夫、2005: 紫外線予報システムの構築、東京家政大学研究紀要, 46.


*石井雅男, 時枝隆之, 松枝秀和, 石井雅男, 齊藤秀, 澤庸介, 広瀬勝己, 青山道夫, 五十嵐康人, 篠田佳宏; 大気中の放射性気体の実態把握に関する研究, 第47回環境放射能調査研究成果論文抄録集（平成16年度）, 7-8 平成17年 12月.


*中澤高清, 遠嶋康徳, 石井雅男, 伊藤昭彦, 青木周司, 井上元 2006: 第7回二酸化炭素国際会議報告, 天気, 53, 153-158.


*石川一郎, 石崎廣, 2005: 高解像度北太平洋モデルにおける黒潮流路の変動と日本近海の水位変動との相関について. 測候時報, 73, 特別号, S45-S50.


石川一郎，石崎 廣，2005: 高解像度北太平洋モデルにおける黒潮流路の変動と日本近海の水位変動との相関について. 测候时報, 73, 特别号, S45-S50.

伊藤秀美


**井上豊志郎**


藤吉志，佐藤正樹，岩崎俊樹，野田暁，對馬洋子，井上豊志郎，中村晃三，北川裕人，2005: 第 3 回 Pan-GCSS (GEWEX Cloud System Study)の報告. 天気, 52, 855-861.

上野 充


碓氷典久


*Usui, N., H. Tsujino, Y. Fujii and M. Kamachi, 2006: Short-range prediction experiments of the Kuroshio path variabilities south of Japan, Ocean Dynamics, 56, 607-623*  


碓氷典久，2005: データ同化の基本原理，海洋データ同化セミナー2004，日本海洋科学振興財団, 11-22  

蒲地政文，倉賀野連，杉本悟史，吉田久美，桜井敏之，碓氷典久，藤井陽介，辻野博之，2005: 気象庁・気象研究所における海況予報システムの現状 月刊海洋, 37, 257-262.

内山明博


*Kato, T., 2006: Structure of the band-shaped precipitation system inducing the heavy...


加藤輝之. 2005: 豪雨予測における水蒸気の鉛直プロファイルの重要性. 気象研究ノート, 208, 177-186.

蒲地政文

上口賢治

川畑拓矢

北畠尚子
北畠尚子, 2005: 温帯低気圧前線の構造と時間発展 - 概念モデルにおける表現 -.
天気, 52, 742-750.  
鬼頭昭雄  
* Hosaka, M., D. Nobara and A. Kitoh, 2005: Changes in snow cover and snow water equivalent due to global warming simulated by a 20km-mesh global atmospheric model. SOLA, 1, 93-96.  


*Sasaki, H., K. Kurihara and I. Takayabu, 2005: Comparison of climate reproduce-ability between a super-high resolution atmosphere general circulation model and a Meteorological Research Institute regional climate model, SOLA, 1, 81-84, doi: 10.2151/SOLA.2005-022


高野洋雄
高野洋雄，樋垣将和，上野大輔，2005：2004年の台風23号による室戸岬の高潮について。月刊海洋，号外42，154-161。

樋原均，中澤哲夫，高野洋雄，2006：ハリケーン・カトリーナについて。天気，**53**, 49-59。

小寺邦彦


小林昭夫


*小林昭夫，2005：GPS 東海地域3時間解析値の面的監視。論文時報，**69**, 99-104.*

小林隆久


財前祐二

斎藤篤思
楠研一，村上正隆，折笠成宏，斎藤篤思，橋口浩之，大東雄二，斎藤充則，2006：小型レーダーで見たウェーク流。天気，**53**, 3-4。

斎藤和雄


斎藤和雄，2005：地形の効果（日本海降雪雲の降水機構と人工調節の可能性に関する研究
斉藤和雄, 経田正幸, 山口宗彦, 2006: メソアンサンブル予報, 数値予報課報告別冊, 52.
猪川元興, 斉藤和雄, 2005: 孤立型降雪雲の EVOLUTION (日本海降雪雲の降水機構と
斉藤 秀時枝隆之, 松枝秀和, 斉藤秀, 澤庸介, 広瀬勝己, 青山道夫, 五十嵐康人, 篠田
佳宏: 大気中の放射性気体の実態把握に関する研究, 第47回環境放射能調査研究成
果論文抄録集（平成16年度）, 7-8.
佐々木秀孝* Sasaki, H., K. Kurihara, I. Takayabu, 2005: Comparison of climate reproducibility
between a super-high resolution atmosphere general circulation model and a
Meteorological Research Institute regional climate model. SOLA, 1, 81-84, doi:
*Sasaki, H., K. Kurihara, I. Takayabu, K. Murazaki, Y. Sato and H. Tsujino, 2006:
Preliminary results from the Coupled Atmosphere-Ocean Regional Climate
Model at the Meteorological Research Institute. J. Meteor. Soc. Japan, 84,
389-403.
*Murazaki, K., H. Sasaki, H. Tsujino, I. Takayabu, Y. Sato, H. Ishizaki and K.
Kurihara, 2005: Climatic change projection for the ocean around Japan using a
high-resolution coupled atmosphere-ocean regional climate model. SOLA, 1,
*Murazaki, K., H. Sasaki, Y. Nakazaki, T. Kato, C. Muroi, A. Hashimoto, S. Kanada, K.
Kurihara, M. Yoshizaki and Y. Sato, 2005: Performance of the long-term
integrations of the Japan Meteorological Agency nonhydrostatic model with use
of the spectral boundary coupling method. Weather and Forecasting, 20,
1061-1072.
澤 庸介*Tanimoto, H., Y. Sawa, H. Matsueda, I. Uno, T. Ohara, K. Yamaji, J. Kurokawa, S.
Yonemura, 2005: Significant latitudinal gradient in the surface ozone spring
時枝隆之, 松枝秀和, 斉藤秀, 澤庸介, 広瀬勝己, 青山道夫, 五十嵐康人, 篠田
佳宏: 大気中の放射性気体の実態把握に関する研究, 第47回環境放射能調査研究成
果論文抄録集（平成16年度）, 7-8.
篠田佳宏時枝隆之, 松枝秀和, 斉藤秀, 澤庸介, 広瀬勝己, 青山道夫, 五十嵐康人, 篠田
佳宏: 大気中の放射性気体の実態把握に関する研究, 第47回環境放射能調査研究成
果論文抄録集（平成16年度）, 7-8 平成17年12月.
柴田清孝* Shibata, K., M. Deushi, T. T. Sekiyama, and H. Yoshimura, 2005: Development of an
MRI chemical transport model for the study of stratospheric chemistry, Pap. Met.
Geophys., 55, 75-119.
*Shibata, K. and M. Deushi, 2005: Radiative effect of ozone on the quasi-biennial
oscillation in the equatorial stratosphere, Geophys. Res. Lett., 32, L24802, doi:
*Shibata, K. and M. Deushi, 2005: Partitioning between resolved wave forcing and
unresolved gravity wave forcing to the quasi-biennial oscillation as revealed with
1029/2005GL022885.
*Shibata, K. and K. Kodera, 2005: Simulation of radiative and dynamical responses of


杉正人, 2005: 異常気象は増えてきたか 過去のデータから. 科学, 75, 1140-1141.


清野直子


Seko, H. Kawabata and T. Tsuyuki, 2005: Data assimilation experiments of Nerima heavy rainfall. *CAS/JSC WGEN Research Activities in Atmospheric and Oceanic Modelling*, 35, 1, 41-1. 42.


Kunii, M., and H. Seko, 2005: Assimilation of radial wind measured by Doppler radar


**高木朗充**

*高木朗充, 福井敬一, 藤原健治, 上田義浩, 飯島聡, 山本哲也, 坂井孝行, 菅野智之, 滝山弘明, 2005*: 地殻変動から推定される2004年浅間山噴火前後の浅部マグマ供給系, 火山, **50**, 363-375.

高木朗充, 2005: 浅間山の山体変動 - 2004年7〜10月-, 火山噴火予知総会会報, **89**. 44-46.


高木朗充, 東京大学地震研究所, 2005: 火山噴火予知総会会報, **89**, 94-97.

**高橋 宙**

五十嵐康人, 吉岡勝廣, 小村和久, 高橋宙, 2005: 富士山頂で観測された$^{7}\text{Be}$と$^{222}\text{Rn}$の季節変動. 第15回大気化学シンポジウム研究集会講演集, 157-160.

**高橋 宙**

五十嵐康人, 吉岡勝廣, 小村和久, 高橋宙, 2005: 富士山頂で観測された$^{7}\text{Be}$と$^{222}\text{Rn}$の季節変動. 第15回大気化学シンポジウム研究集会講演集, 157-160.


**高山寛美**


*高山博之, 吉田明夫, 2005, クラスター活動の中で続いてさらに大きな地震が発生する現象を用いた M5 以上の地震の発生予測, 地震 2, 57, 409-418.


永井哲広, 2005, レーザーハンドブック 第2版 (編集委員長 豊田 浩一, 部分執筆), オーム社

永井哲広, 村山利幸, 2005: IV 編 レーザー計測 27 章レーザーレーダー (ライダー) 27.3 地球環境科学への応用 27.3.1 雲エアロゾル測定, レーザーハンドブック 第2版 豊田 浩一編.

仲江川敏之

*仲江川 敏之, 徳広 貴之, 2005: 気象庁 SiB オフライン実験により推定された陸域貯水量の Taylor ダイアグラムによる検証, 水文・水資源学会誌 15, 310-320.

中里真久
中里真久, 司部勝, 2006, ダウンバーストの超短時間予測, レーダー観測技術資料, 54(III), 1-11.

中澤哲夫


中澤哲夫, 経田正幸, 山口宗彦, 2005: 週間アンサンブルに見る台風発生, 京都大学防災研究所研究集会 16K-6 「台風災害低減へ向けた挑戦 - 我々は何をなすべきか」報告書, 118-123.

中野俊也


中央英之

野田 彰

Systems during the Late Baiu Season in the Global Warming Climate Simulated by a Non-hydrostatic Regional Model. *SOLa, 1*, 117-120, doi: 10.2151/sola.2005-031.


*巻崎志穂, 田瀬則雄, 萩野谷成徳, 2005: 障域環境研究センターにおける蒸発散量推定法の検討. 筑波大学陸域環境研究センター報告, 6, 45-51.


平原幹俊

廣瀬勝己


深堀正志


福井敬一
篠原宏志, 風早康平, 石井雅男, 齊藤秀, 波多野秀樹, 宮下誠, 飯野英樹, 中堀康弘, 五十嵐康人, 篠塚宏志; 大気中の放射性気体の実態把握に関する研究, 第47回環境放射能調査研究成 果論文抄録集(平成16年度), 7-8.

福井敬一, 2006: 放熱量観測. 気象庁技術報告, 128, 115-121.


藤井陽介
*Fujii, Y., 2005: Preconditioned Optimizing Utility for Large-dimensional analyses (POpULar), J. Oceanography 61, 167-181


藤井陽介, 2005: 降下法と背景誤差相関の取り扱い, 海洋データ同化セミナー2004, 日本海洋科学振興財団, 45-44
藤井陽介, 石川洋一, 2005: アジョイント法, 海洋データ同化セミナー2004, 日本海洋科学振興財団, 41-44


藤部文昭, 北畠尚子, 別所康太郎, 星野俊介, 2005: 台風0418の構造と強度の変化, 台風9119との比較. 月刊海洋, 号外42, 76-84.

北畠尚子, 星野俊介, 別所康太郎, 藤部文昭, 2005: 台風0418の構造と強度の変化, 及びそれに対する環境場の影響. 月刊海洋, 号外42, 76-84.

別所康太郎

*Vischi, N., H. Tsujino, Y. Fujii and M. Kamachi, 2006: Short-range prediction experiments of the Kuroshio path variabilities south of Japan, Ocean Dynamics, 56, 607-623

藤井陽介, 2005: 南下法と背景誤差相関の取り扱い, 海洋データ同化セミナー2004, 日本海洋科学振興財団, 45-62
藤井陽介, 石川洋一, 2005: アジョイント法, 海洋データ同化セミナー2004, 日本海洋科学振興財団, 41-44

浦地政文, 倉賀野連, 杉本悟史, 吉田久美, 桜井敏之, 辻野博之, 2005: 気象庁・気象研究所における海況予報システムの現状, 月刊海洋, 37, 257-262.

石崎士郎, 藤井陽介, 安田珠幾, 2005: 気象研究所海洋データ同化システム(MOVEシステム)の開発, 平成15年度全国季節予報技術検討会資料(気象研究所), 25-34

石崎士郎, 藤井陽介, 安田珠幾, 2005: 気象研究所海洋データ同化システム(MOVEシステム), 海洋データ同化セミナー2004, 日本海洋科学振興財団, 81-102


北畠尚子, 星野俊介, 別所康太郎, 藤部文昭, 2005: 台風0418の構造と強度の変化, 及びそれに対する環境場の影響. 月刊海洋, 号外42, 76-84.

別所康太郎


北畠尚子, 星野俊介, 別所康太郎, 藤部文昭, 2005: 台風0418の構造と強度の変化, 及びそれに対する環境場の影響. 月刊海洋, 号外42, 76-84.

保坂征宏

*Hosaka, M., D. Nohara and A. Kitoh, 2005: Changes in snow cover and snow water equivalent due to global warming simulated by a 20km-mesh global atmospheric model. SOLA, 1, 93-96.


北畠尚子, 星野俊介, 藤部文昭, 北畠尚子, 2005: 台風 0418 の構造と強度の変化, 及びそれに対する環境場の影響. 月刊海洋, 号外 42, 76-84.


村田昭彦, 益子渉, 2005: 台風 0416 の急発達に対する環境場の影響. 月刊海洋, 号外 42, 68-75.
益子渉, 2005: 台風 0422 による関東南部での寒気場内における強風のメカニズム. 月刊海洋, 号外 42, 145-152.
楠研一, 益子渉, 2006: 台風, 0418 号のインナーコアの構造と時間変化. 月刊海洋, 号外 42, 145-152.

時枝隆之, 松枝秀和, 石井雅男, 斎藤秀, 澤庸介, 青山道夫, 五十嵐康人, 篠田佳宏; 大気中の放射性気体の実態把握に関する研究, 第47回環境放射能調査研究成 果論文抄録集 (平成16年度), 7-8.


*村上正隆*, 2005: 台風に伴う降水雲の航空機観測と数値実験, 「メソ対流系」(吉崎正憲, 村上正隆, 加藤輝之編), 気象研究ノート, 208, 53-64.


*楠研一*, 村上正隆, 折笠成宏, 斎藤篤思, 橋口浩之, 大東雄二, 斎藤充則, 2006: 小型レーダーで見たウェーク流。天気, 54, 4-4.


*Murazaki, K., H. Sasaki, H. Tsujino, I. Takayabu, Y. Sato, H. Ishizaki, K. Kurihara, 2005: Climatic change projection for the ocean around Japan using a


村田昭彦


村田昭彦, 益子渉, 2005: 台風0416の急発達に対する環境場の影響. 月刊海洋, 号外 42, 68-75.


室井ちあし


石崎士郎、藤井陽介、安田珠幾、2005：気象研究所海洋データ同化システム(MOVEシステム)の開発、平成15年度全国季節予報技術検討会資料(気象研究所)，25-34

山崎明宏


山崎 信雄


*Fujibe, F., N. Yamazaki, M. Katsuyama, 2005*: Long-term trends in the diurnal cycles...

藤部文昭, 山崎信雄, 勝山 稔, 2005: 日本における雷頻度の時刻別経年変化. 天気, 52, 235-239.

山崎信雄, 2005: 東アジアにおける近年の雨の降り方の変化. 国立環境研究所地球環境研究センターニュース, (16), 11-12.

山本剛靖


山崎信雄, 2005: 東アジアにおける近年の雨の降り方の変化. 国立環境研究所地球環境研究センターニュース, (16), 11-12.

行本誠史


吉崎正憲


Eito, H., T. Kato, M. Yoshizaki and A. Adachi, 2005: Numerical simulation of the


吉崎正憲, 2005: 第3章 気象システム 39-56, 地球環境科学（木村龍治, 藤井直之, 川上紳一編集）, (財)放送大学教育振興会.

吉崎正憲, 2005: 「メソ対流系」研究の到達点とこれから, 天気, 52, 560.

吉崎正憲, 2005: 集中豪雨のメカニズムと予測. 第39回夏季大学「新しい気象学」～台風・集中豪雨～, 25-34.


吉崎正憲, 2005: WMO-01の日本の海における天気変動と熱・水蒸気の収支について. 気象研究ノート, 208, 211-220.

吉崎正憲, 加藤輝之, 2005: メソ対流系に関するまとめ. 気象研究ノート, 208, 377-386.


*Wada, A., 2005: Numerical simulations of sea surface cooling by a mixed layer model during the passage of Typhoon Rex. 
*J. Oceanogr.*, 61, 41-57.

Wada, A., 2005: Numerical experiments of Typhoon Bilis using a nonhydrostatic atmospheric model coupled with a mixed-layer ocean model. 
*CAS/JSC WGNE Research Activities in Atmospheric and Oceanic Modelling*, 35, 9. 05-9. 06.

和田章義, 2005: 衛星観測データ及び非静力学大気海洋混合層結合モデルによる台風強度維持と台風による海面水温低下の関係. 
*月刊海洋*, 号外 42, 203-211.

和田章義, 2005: 2004 年の日本上陸台風と海面水温場、大気場及び海洋貯熱量の関係. 
*月刊海洋*, 号外 42, 30-39.